

鶴ヶ島RC会報



奉仕しよう みんなの
人生を豊かにするために

2021-2022年度

第2570地区ガバナー 水村 雅啓
鶴ヶ島RC会長 齊藤 大祐

R.I 会長 シェカール メータ

第一グループガバナー補佐 山本 庄一
鶴ヶ島RC幹事 山岡 達生

第1883回例会 令和3年10月13日(水)
例会場 アルカーサル迎賓館 川越

【開会点鐘】12:30 齊藤大祐会長

【斉唱】
ロータリーソング「それでこそロータリー」

【米山奨学生紹介】
ロータリー米山記念奨学委員会推進委員 中嶋清



米山奨学生 ブサル、リラ バルラブ 様

【会長の時間】 齊藤大祐会長
米山梅吉にいて3

渡米した米山はサンフランシスコ福音会寄宿舎に
寄寓、アメリカ生活が始まりました。

希望に燃えた日本の若者たちがここを足場に生活
していました。

米山はここで第二の師とも言うべき青山学院長本
多庸一に出会う幸運に恵まれます。本多は、たまたま
渡米、福音会に逗留中でした(本多庸一(嘉永元・
1848-明治45・1912)、明治時代のキリスト教指導者
で、陸奥弘前藩士本多久元の長男、青森県会議長な
どを経て、後青山学院長、日本メソジスト教会初代監
督を務めた)

その頃の学資の途は血洗いか学僕でした。米山も
これらをこなして、カリフォルニア州のベルモンド・アカ
デミー、(大学に入る準備の高等学校)を終えて、オハ

イオのウェスレアン大学に進みました。福音会ハリス監
督の推薦でした。監督たちは、米山が神学に進むもの
と思っていたようでした。だが米山は生涯信仰の道に
入らなかったように、ここでも政治、文学一般科目に終
始したようである。米山はその後ニューヨークのシラク
ス大学に転じました。どちらに何年いたか分かりま
せんがオハイオからマスター・オブ・アーツ(文学修士)
の称号を得ています。

渡米して8年後米山は帰国しました。アメリカの知
識を持ち乍ら堂々たる日本の紳士としての帰国でした。
ハイカラで身だしなみよく、礼儀正しく養家との疎音も
復活しました。明治28(1895)27歳(教科書でおなじみ
の下関条約が結ばれた年です)

養家の一人娘春子も青山女学院高等科を終わっ
ていました。この学校はこの年、青山学院と改称して
ます。

米山は帰国時、1冊の自著原稿を携えておりました。
『提督彼理(ペルリ)』です。嘉永6年(1853)、黒船4隻
を率いて浦賀にやってきたアメリカ東インド艦隊司令長
官ペリーの事です。この書はペリーが帰国後政府に
復命した資料をもとに、日本人としてアメリカを書いた
ユニークな著書です。

米山はこの本を博文館の大橋新太郎(実業家、政治
家)のところに持ち込みました大橋はその出版を快く引
き受け、以後交友は生涯続きました。

米山は更にこの原稿を勝海舟のところに持ち込み
ました。海舟はこれを見て喜び、「初雷発東隅・丙午仲
夏」と題字を書いております。更にこの書に藤田四郎も
序を寄せています。

続く

本日の卓話者は米山奨学生 ブサル・リラ・バル
ラブ様です。お話の中から普段忘れがちな向学心を思
い出して頂きよい良い影響を受けて頂ければと思いま
す。

【幹事報告】 齊藤大祐会長

1. 国際奉仕セミナーのお知らせ。
2. ロータリー研修会の案内。
3. ロータリー財団補助金が承認されました。

【 委員会報告 】

【 出席報告 】 菊田真忠委員長



会員数	出席者	出席 免除者	免除 出席者	出席率	修正 率
27名	22名	2名	2名	81%	

◎ ニコニコ

- * ブサル、リラ バルラブ様ようこそおいで頂きました。
 本日は卓話有難うございます。 齊藤大祐君
 川野昇君 内野麒一君 渡辺道雄君
 松崎峰夫君 山中基充君 鴨下三夫君
 宮前典子君 田中憲一君 西澤克己君
 長峰秀和君 木村武志君 佐々木龍児君
 登坂一彦君 森治高央君 菊田真忠君
 市川大君 藤井愛里君



- * 本日の卓話の米山奨学生ブサル、リラ バルラブ君なネパール出身です。 中嶋清君



【 卓 話 】
 米山奨学生 ブサル、リラ バルラブ 様



【 閉会点鐘 】 13:30 齊藤大祐会長



事務所：鶴ヶ島市商工会館内
 鶴ヶ島市鶴ヶ丘 855 TEL049-271-6600
 FAX049-271- 6610
 例会場：アルカーサル迎賓館川越
 川越市鯨井新田4-11 TEL049-231-7777
 E-mail:tsurugashima.rc@ah.wakwak.com
 ホームページURL <http://tsurugashima-rc.jp>
 例会日時：水曜日 12：30～13：30